

蛇穴山古墳(前橋市)

正面が蛇穴山古墳



この反対側に横穴式石室がある



左手に廻り込む



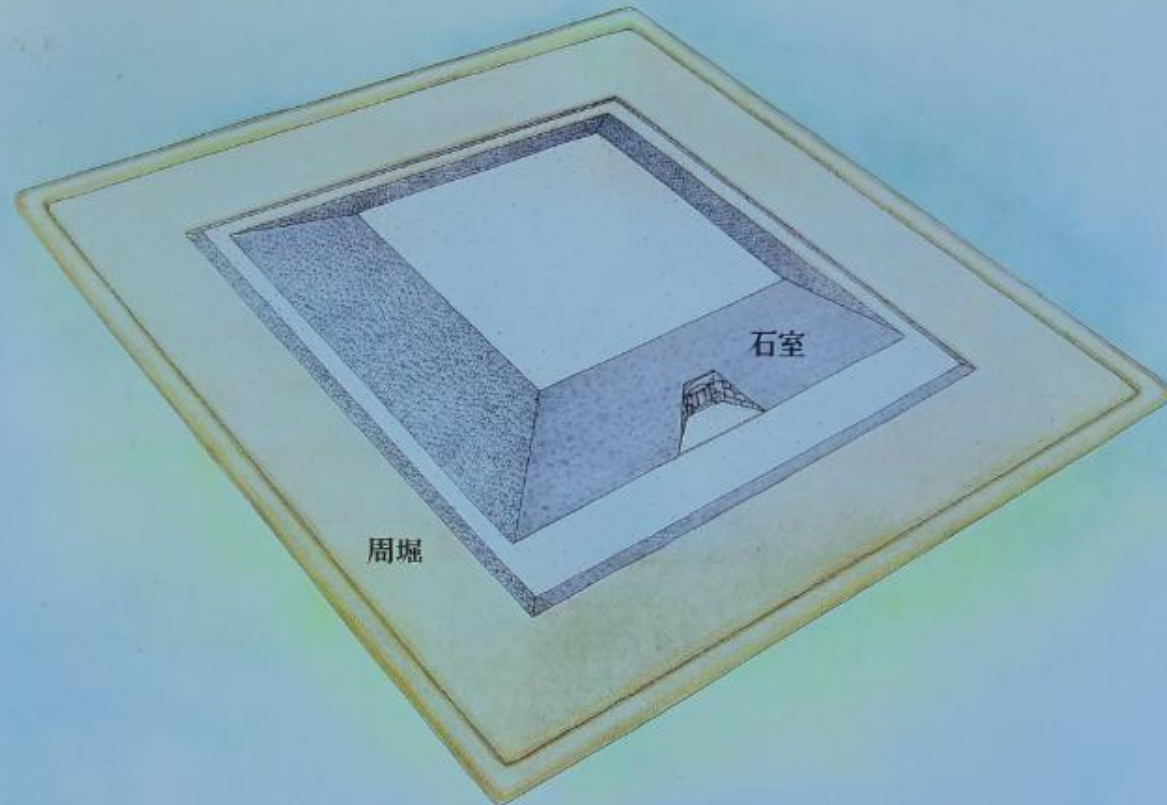


標柱と説明板がある



8世紀初頭のころの方墳という

国指定史跡 蛇穴山古墳推定復原図



今から約1300年前、古墳時代の終末期に造られた一辺が約40mの方墳。
●墳丘に葺石があり、石材加工技術のすばらしい横穴式石室をもつ。

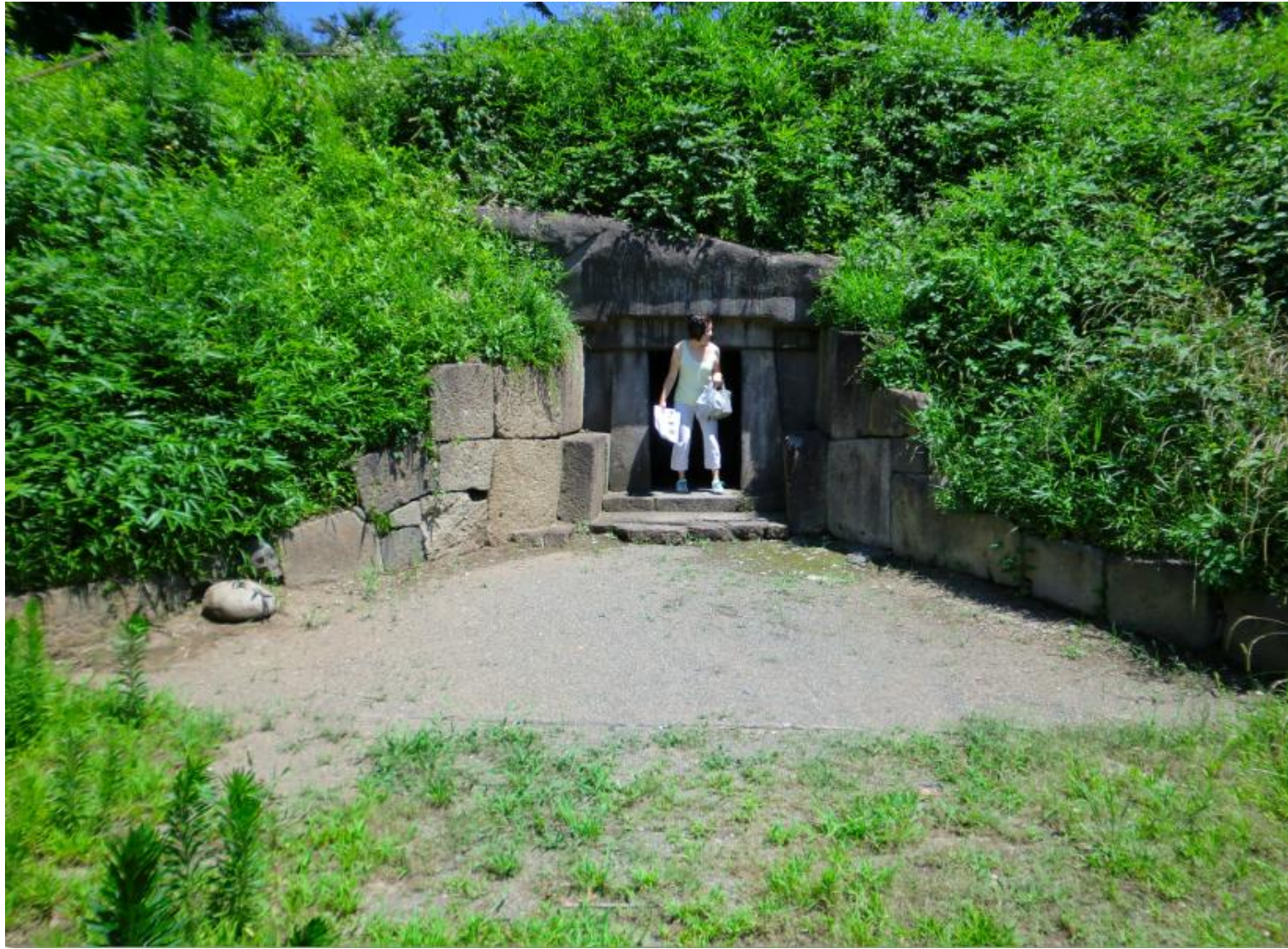
前橋市教育委員会
平成3年10月設置●

史跡 蛇穴山古墳

一辺の長さ約四〇メートルの古墳である。埋葬主体は横穴式石室であるが、羨道を欠き、玄門と玄室とがみえる特殊な形をとっている。玄門の前には、羨道の痕跡ともみられる構造とハの字形にひらく前庭がある。石室は天井・奥壁・左右壁ともたみどとに加工した各一枚の巨岩で構成されている。天井石・奥壁などの縁はし字形に切り込んで壁の石と組み合わせている。精巧な細工をほどこした玄門ととも、当時の石材加工技術の優秀さを物語るている。石室の規模は玄室長一四・三メートル、同幅二・六メートル、高さ一・八メートルである。隣接する室器山古墳とともに、果内古墳は最終末期に造られたものとして、八世紀初頭の頃に位置づけられる。

右手の石段を登ると墳頂/左手では補助員が石室内を下見中





正面は玄門/玄門上の冠材が寺院建築の虹梁にあるような彫り込みが施されているのが分かる



壁面には漆喰の跡が見られるという



遠景から



更に引いて見る



墳頂部を見る



境超に登った





墳頂から見る



これは「五千石用水」の名残り



五千石用水

慶長12年頃五千石用水が総社鉦泉付近の天狗岩用水から引水された。この用水は、総社、元総社、東、高崎市の一部城内の灌漑をし、その地域が五千石に達していることにより起こったもので、天狗岩用水以前からあったとも伝えられている。現在の五千石の基礎は総社城に引水するためつくられたものであり、城の内堀には不可欠の用水であった。後には、宿場町に利用され防火用水となり、様々な意味で総社町に役立つ用水である。

平成10年3月吉日

総社地区史跡愛存会

すぐ近くの宝塔山古墳の墳頂に墓地がある江戸時代初期にこの地を治めた秋元氏が、近隣の農民の為、天狗岩用水を引くことに尽力したという



参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/GUNMA/maebasi/zvaketu2.html>

http://www.sukima.com/15_kantou/19jaketu.html

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/maebashi/ja.htm>



インターネットより